

リデュース ヨコハマ R 委員会 第9回全体会議

日時：平成27年3月26日(木)

15：00~16：25

場所：松村ビル本館地下1階会議室

1 開会

(3R推進課長あいさつ要旨)

本委員会も今回で9回目となるが、委員の皆様には幅広い分野からご出席いただき、とても貴重な委員会だと感じている。

本日も、各報告事項において委員の方々からの報告や所属の活動紹介をいただくことになっている。

委員会の活動としては、寄せられた提案等について検討する役割も担っているが、様々な分野の委員の皆様が一同に介する貴重な場であるので、この場を活用いただき、情報交換や意見交換をしていただきたい。

(事務局からの報告・連絡)

- ・委員交代に伴う新委員の紹介（日本チェーンストア協会様）
- ・委員の訃報と、新委員の紹介（横浜市町内会連合会様）

2 あいさつ

(委員長あいさつ要旨)

先日、「横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会」において、リデュースの推進、ごみの減量化について報告があった。横浜市は大変先進的な取組を進めている一方で、今後に向けてますますごみを減らしていこうということが確認された。次年度の大きなポイントとしては、出たごみをリサイクルに回すということも大切だが、ごみそのものを減らすリデュースを推進するとともに、食品ロスを減らすということが目玉になるとのことだった。本日の会議においても、食品ロス削減に関連した取組について紹介されると思うが、横浜市はいろいろな取組をしていると感心している。

本委員会の委員の皆様は様々なアイデアを出してくださっているが、良い取組だからことそれに関連する皆様が市民の皆様に周知して実践いただくことが重要だと思う。

その場として本委員会はアイデアを出したり、意見交換をしたり、市民の皆様に届くような形であり、非常に貴重な機会だと思っているので、引き続きこの委員会が果たすべき役割は大きい。そのためには、次年度に向けて皆様の知恵をお借りすることになると思うので協力をお願いしたい。

3 議事

(1) 報告事項

- ・「マイボトルスポット」の取組状況について（資料1のとおり報告）
- ・「食品ロス削減」啓発映像の活用状況について（資料2のとおり報告）

- ・「割り箸・レジ袋等削減キャンペーン」の結果について（資料3のとおり報告）

（報告事項に関する質疑応答）

委員：「食品ロス削減」啓発映像について、活用状況の報告は理解できたが、他の委員の皆様にもわかるよう、映像の放映先がわかるページのURL等の紹介が必要ではないか。

事務局：「ヨコハマRひろば」ウェブサイトのトップページにも掲載しており、ページのURLが分かるものについては後ほど配付させていただく。

委員長：前年度、本委員会で、完成した「食品ロス削減」啓発映像を上映していただいたが、このような取組をぜひ委員の皆様に見ていただきたい。

委員：「食品ロス削減」啓発映像を缶・びん・ペットボトルの選別施設へ小学校4年生を中心とした施設見学者に映像を流す取組を行っている。家庭に持ち帰って、家族と話し合うという機会になっているのではないかと思う。

委員：映像のDVDは貸し出ししているのか。

事務局：貸し出しという形ではないが、ご要望があればお渡しできる。

事務局：映像の活用としては、本市としても各種イベント等に出向いてPRを行っている。各収集事務所においても、区内のイベントや出前講座等で場面に応じて活用している。皆様の目のつくところで放映していきたいと考えている。

委員長：「横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会」でも、平成27年度は「食品ロス削減」に力を入れていくという報告があったので、様々な場所で活用されると良いと思う。

（2）委員による活動紹介、意見交換

- ・公益社団法人 日本包装技術協会様の活動について（資料4・5のとおり紹介）

（活動紹介に関する質疑応答、意見交換）

委員長：包装の高機能化は、結果的に商品のロングライフ化・鮮度保全がされることになり、「食品ロス」の中の手つかず食品の削減にもつながる。また、これまで過剰に包装されていたものも高機能化により安全性などが保たれるのであれば、包装には重要な役割がある。

高機能化と環境配慮、コスト削減等にいろいろな努力をされていると思うが、その中で、画期的に発展している部分や課題となっている部分はどのようなことがあるか。

委員：包装の必要最低限の安全性保持や重量の削減、コスト削減が進んでおり、包装自体も軽量化されている。包装技術や品質管理等についても、各企業が努力をしており、より安全な商品ができるようになってきている。また、製造管理、製造過程の向上も進んでおり、包装材料の高機能化が達成してきている。

委員長：技術が進んで、包装材料の軽量化が実現されるとコストも削減され、環境負荷も低減できる道筋があるということだと思う。

委員：資料にある包装・容器の出荷額は国内の金額か。

委員：輸入されているものは統計に含まれていない。包装材料が輸出しているというのあまり例がないが、最近プラスチック製品であれば、中国をはじめとしたアジア圏から輸入している例がある。

また、食品や日用品は現地生産しているものは海外調達をしていると思う。

(3) 平成 27 年度の活動について

(事務局より資料 6・7 のとおり報告)

4 情報提供 等

・ 3 R 夢プラン啓発ツールの紹介

5 その他

6 閉会あいさつ

(企画調整担当部長あいさつ要旨)

平成 25 年度に制作した「食品ロス削減」啓発映像については、本市でも様々は場面で活用させていただいている。平成 26 年度は、「ヨコハマ 3 R 夢プラン第二期推進計画」のスタートの年であり、現在の推計では、資源化量も大幅に減っており、容器包装の減量化や紙類の減量化などが見られ、皆様がいろいろな形で取り組まれている成果だと思う。

また、生ごみの削減についても、「食品ロスの削減」、「水切り」など様々な取組を進めていくが、市民への啓発は、市民・事業者の皆様のアイデアも必要となるので、引き続きご協力をお願いしたい。

第9回

ヨコハマ ^{リデュース}R 委員会 全体会議

日時：平成27年3月26日（木）
午後3時から
場所：松村ビル地下1階会議室

次 第

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 報告事項

- ・「マイボトルスポット」の取組状況について 資料1
- ・「食品ロス削減」啓発映像の活用状況について 資料2
- ・「割り箸・レジ袋等削減キャンペーン」の結果について 資料3

(2) 委員による活動紹介、意見交換

- ・公益社団法人 日本包装技術協会様 資料4、5

(3) 平成27年度の活動について

資料6、7

4 情報提供 等

- ・3R夢プラン啓発ツールの紹介

5 その他

6 閉会あいさつ

「マイボトルスポット」の取組状況について

1 趣旨

平成 22 年 10 月に取組を開始した「マイボトルスポット」について、これまで公共施設、チェーン系カフェ、民間施設など徐々に登録数を増やしてきましたが、現在の取組状況について報告します。

2 マイボトルスポット設置状況

平成 26 年 7 月 2 日時点				平成 27 年 3 月 1 日現在			
施設等	カフェ	コンビニ	合計	施設等	カフェ	コンビニ	合計
125	101	89	315	126	103	89	318

3 印刷物について

- 平成 25 年 4 月に発行したチラシを改訂して、持ち歩きにも使用できるポケット型のマップを作成しました。現在は、各区役所、市役所の市民情報センター、マイボトルスポット登録施設の一部に配架しています。

4 スタンプラリーの開催内容について

- マイボトルの利用を呼びかけるための新たなイベントとして、マイボトルスポットに登録されている「横浜山手西洋館」でのスタンプラリーを開催しました。

(1) 開催日時

平成 26 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）

両日とも 9 時 30 分～15 時（受付時間は 9 時 30 分～12 時）

(2) 開催場所

横浜山手西洋館のうち、「マイボトルスポット」に登録している全 7 館
（横浜市イギリス館、山手 111 番館、山手 234 番館、エリスマン邸、
ベーリック・ホール、外交官の家、ブラフ 18 番館）

(3) 受付場所

横浜市イギリス館、ブラフ 18 番館

(4) 内容

マイボトルを持参してご参加いただき、開催場所内の「マイボトルスポット」で、専用のスタンプカードに押印をした後、スタンプが貯まったら、先着で景品を進呈します。

スタンプ 7 個すべて集めるとエコバッグ、5 個以上でミニタオル

(5) 受付人数（開催二日間の合計）

受付場所	人数
横浜市イギリス館	107
ブラフ 18 番館	141
合計	248

(6) 景品引換人数

	15 日（土）		16 日（日）		合計
	エコバッグ	ミニタオル	エコバッグ	ミニタオル	
横浜市イギリス館	54	1	74	2	131
ブラフ 18 番館	40	2	37	8	87
合計	94	3	111	10	218

「食品ロス削減」啓発映像の活用状況について

1 各種イベント等での紹介

平成 25 年度にプロジェクトチームで作成した「食品ロス」削減啓発映像について、今年度各種イベント等で放映、啓発を行いました。

*エコ・クッキング講座

(26年6月@MARK IS みなとみらい 東京ガス横浜ショールーム)



*かながわ食育フェスタ (26年7月@横浜赤レンガ倉庫)



*よこはま食育イベント (26年12月@MARK IS みなとみらい)



* 環境絵日記展 (27年1月@サンモール洋光台駅前広場・CCラボ)



* 収集事務所のホームページ【抜粋】(磯子事務所)

横浜市

トップメニュー 検索

モバイル版 リンク集 サイトマップ

資源循環局ホームページ内検索 検索

資源循環局トップ 市民の方へ 事業者の方へ 計画・法令 データ・パンフレット 施設・組織図

ホーム 施設・組織図 収集事務所 磯子事務所

3月開業

資源循環局磯子事務所

資源循環局磯子事務所では、家庭ごみの収集を行っています。ごみや資源の出し方など、気軽にお問い合わせください。また、磯子事務所では様々な啓発活動を実施しています。啓発依頼も随時お持ちしています。

ヨコハマ3R夢!

いぞごまモルンジャー

◆磯子事務所啓発予定 ◆ ☆磯子事務所リユースコーナー☆

[new 啓発予定表](#) [new リユース家具の提供](#)

[new リユース\(磯子\)文庫](#) [new 啓発ポスター](#)

事務所の入口はこちらです
写真をクリックしてください

How to Put Out Your Garbage and Recyclables
ごみと資源物の分け方・出し方 (外国語版)

◆新着お知らせ◆

- 食品ロスをなくす動
- ペラダでも簡単!
- た
- ペットボトルツリー
- 土壌混合法にご協
- 小型家電回収のお

2 その他

・現在、横浜市国際交流協会(YOKE)を通じて外国人向けの普及啓発として、協会主催事業や各講座等での放映を依頼しており、所管の国際交流ラウンジ内で放映をしていただく見込みとなっています。

割り箸・レジ袋等削減キャンペーン

割り箸・レジ袋などを辞退して賞品をゲット!

in gooz

いちよう並木通り店

現在、横浜市では事業者と連携したごみ削減の取組を行っています。
今年度も、株式会社スリーエフ様のご協力のもと、レジ袋や割り箸等の削減に向けた、約2か月間のキャンペーンを行います。

期間中、お弁当購入時のレジ袋や割り箸等を辞退されたお客様へポイントを付与し、貯めたポイントと賞品を交換できるようにすることで、環境行動の促進を図ります。

グーツヨコハマ3R夢(スリム)

gOOZ

G30 のその先へ
ヨコハマ3R夢!

キャンペーン内容

- キャンペーン期間中、お弁当購入時のレジ袋や割り箸・フォーク・スプーンを辞退するごとに、**専用スタンプカード**（当日配付枚数 200 枚）に1ポイント分のスタンプを押印します。貯まったポイントに応じて、**3ポイントで「イーオミニタオル」、7ポイントで「無料でコーヒー1杯とマイボトル」**を差し上げます。

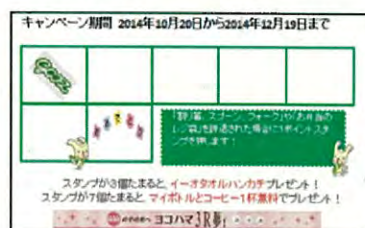
キャンペーン期間

- 平成 26 年 10 月 20 日(月)～平成 26 年 12 月 19 日(金)

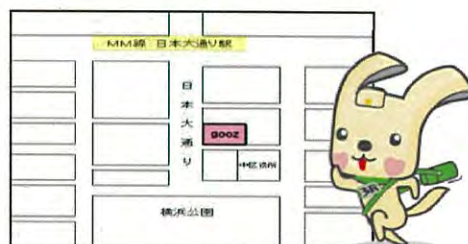
実施店舗

- 「g o o z^{※1}」 いちよう並木通り店
(横浜市中区日本大通15 朝日会館ビル1階)
※1 スリーエフ株式会社が運営している、ファーストフード強化型店舗

配付用スタンプカード



「g o o z いちよう並木通り店」



キックオフイベントの開催

- キャンペーン実施店舗にて開催
- 平成 26 年 10 月 20 日(月) 11:30～12:30
- 先着 200 名様へ、**マイ箸をプレゼント!**
お弁当購入時のレジ袋または割り箸等を「不要」と申し出ていただいた方が対象です。

※取材の場合は、直接現地へお越しください。

配付用マイ箸



昨年度キャンペーンの様子



本件については、株式会社スリーエフ様との同時記者発表となります。

お問合せ先

資源循環局 3 R 推進課長 河村 義秀 Tel 045-671-2563

2015年2月

公益社団法人 日本包装技術協会

Japan Packaging Institute (JPI)

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル
Tel: 03-3543-1189 / Fax: 03-3543-8970 / Web.: www.jpi.or.jp

沿革

本会は1963年(昭和38年)の3月に設立され、同年6月に通商産業大臣により社団法人の認可を受けました。以来、「創意工夫により、包装の未来に挑む」という理念のもとに包装技術の改善・向上を図り、生産・流通および消費の合理化を推進することを通してわが国の経済の発展に寄与してきました。その成果は包装や流通に関する調査・研究、規格の作成や制定をはじめ、最新情報をサービスすることを目的として開催する研究会、セミナー、大会、シンポジウムや人材育成を目的とした各種研修コース、さらに技術協力を中心とした国際活動等に反映され、国内の各界のみならず海外でも高い評価を得ております。

監督官庁は、経済産業省 製造産業局 紙業服飾品課でしたが、2011年(平成23年)10月に内閣府より公益社団法人への移行認定を受け、同年11月1日に公益社団法人日本包装技術協会として登記を行ないました。

なお、本会は2013年(平成25年)に創立50周年を迎えました。

目的 (定款より抜粋)

本会は、広く包装に関する知識及び技術の普及推進に努め、生産、流通及び消費の分野における合理化を図ると共に、包装に係わる人材の資質向上に努め、もって我が国経済の発展、国民の社会生活の向上及び国際社会への貢献等、我が国の公益増進に寄与することを目的とする。

事業概要 (定款より抜粋)

本会は、目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 包装に関する調査及び研究開発
2. 包装に関する情報資料収集、統計等及び提供
3. 包装に関する開発と啓発
4. 包装に関する教育の実施と人材の育成
5. 包装に関する相談及び指導
6. 包装に関する規格の作成、制定及びそれらの国内外への啓発活動
7. 包装に関する内外関係機関との交流及び協力
8. 包装に関するグローバルな活動
9. 包装に関する展示会の開催
10. 包装に関する書籍の出版及び販売

組織

本会は、東京に本部を置き、西日本(同:福岡市)、関西(同:大阪市)、中部(同:名古屋市)、東北(同:仙台市)および北海道(同:札幌市)の5支部で構成されています。現在、包装、物流等の分野及びユーザー各産業から約1,176社が会員として登録しています。

役員

平成26年度の役員構成は、会長1名、副会長3名、専務理事1名、常務理事11名、理事10名、監事3名の合計29名となっています。

事業

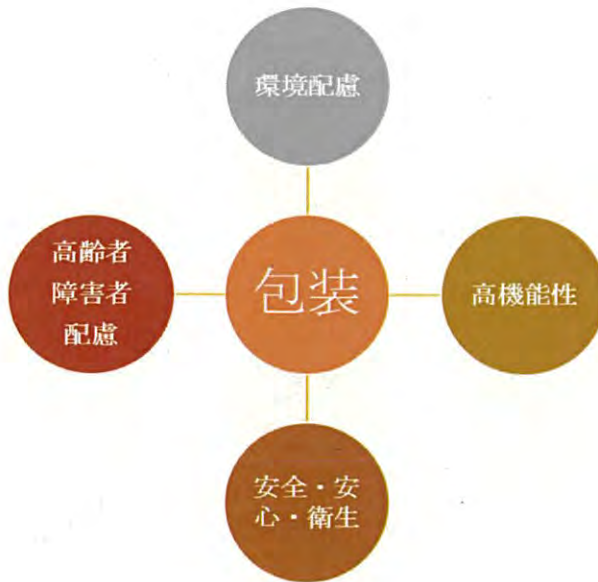
事業区分	事業の内容
公益目的事業	<講座、セミナー、育成事業> 包装に関する知識の習得と技術の向上を図ることを目的とする事業 (管理士講座、アカデミー、セミナー、コース、研究会、フォーラム、研究大会、懇話会、等) *支部で行っている事業はすべてここに属し、公1として扱う
	<体験活動等交流事業> 包装に関する体験活動を通して知識の習得と普及を図ることを目的とする事業 (海外視察団、見学会、等)
	<表彰、コンクール活動等啓発・普及事業> 包装に関連した技術やデザインの啓発を目的として行われる事業 (パッケージングコンテスト、木下賞、等)
	<展示会、ショー事業> 包装の最新情報を内外の関連分野に対して啓発、普及を行うことを目的とする事業 (東京国際包装展、暮らしの包装商品展、等)
公2	<調査、資料収集事業> 委託による調査及び資料収集が中心となっている事業で、結果は報告書や規格となって一般に公表される (ISOに関する活動、JISに関する活動、統計、等)
公3	<出版事業> 毎月刊行されている当会の機関誌の出版に関する事業。雑誌は会員には無料、一般には有料で配布されている。その他、非定期的に包装に関する単行本等を刊行
収益事業	収1

★ 現在、公益社団法人として会員の皆様方のご支援のもとに特に力を入れている事業は次の通りです。

- 包装分野におけるJIS規格及びISO規格の原案作成と国際整合性
- 環境問題対策とリサイクル促進
- 高齢者・障害者配慮の包装
- 包装人材の育成
- 海外諸国との提携及び技術指導

事務局員数

2015年2月現在、事務局員(正職員)数は23名です。



・環境配慮

3 R 環境配慮 (リデュース、リユース、リサイクル)

→特に、減量化、減容化、軽量化、再生利用

カーボンフットプリント

・高機能性

アクティブパッケージ (バリア性、微生物対応、
香気や光の遮断)

インテリジェントパッケージ

(ICタグ、チップ)

・安全・安心・衛生

タンパーレジスタント

トレーサビリティ (流通履歴の確認)

偽造防止

品質保持 → ロングライフ化、鮮度保持

・高齢者・障害者配慮

ユニバーサルデザイン

使いかたのよさ

→ 詰替え、断熱、小分け、電子レンジ対応



2. 目的と事業



●目的

本会は、広く包装に関する知識及び技術の普及推進に努め、生産、流通及び消費の分野における合理化を図ると共に、包装に係わる人材の資質向上に努め、もって我が国経済の発展、国民の社会生活の向上及び国際社会への貢献等、我が国の公益増進に寄与することを目的とする。

●事業

1. 包装に関する調査及び研究開発
2. 包装に関する情報資料収集、統計等及び提供
3. 包装に関する開発と啓発
4. 包装に関する教育の実施と人材の育成
5. 包装に関する相談及び指導
6. 包装に関する規格の作成、制定及びそれらの国内外への啓発活動
7. 包装に関する内外関係機関との交流及び協力
8. 包装に関するグローバルな活動
9. 包装に関する展示会の開催
10. 包装に関する書籍の出版及び販売
11. 前各号に掲げるものの他、本会の目的を達成するために必要な事業



3. 会員

2012年4月1日現在

会員総数 1,150社

法人会員 2,923名(947社)

個人会員 177名

登録員合計 3,100名

* 特別会員 26名



〔支部別登録員〕

関東 1,822

関西 622

中部 442

西日本 98

北海道 46

東北 70

4. 関係団体



加盟団体

・アジア包装連盟 (APF)

・世界包装機構 (WPO)

・世界包装研究機関連合会 (IAPRI)

・国際包装展主催者連盟 (COPE)

関連団体

・日本包装管理士会

・日本包装専士会

・日本包装コンサルタント協会

・技術士包装物流会

・日本包装学会

・日本MH協会

5. 事業活動



調査・研究

会員
サービス

経験交流

JPIの
活動

情報・出版

教育・研修

展示会

5-1 調査・研究



●ISO関係原案作成及び見直し

1. ISO/TC122(包装) 国内対策委員会
2. ISO/TC122(包装) 幹事国(日本)・国際幹事(JPI)

●JIS関係原案作成及び見直し

1. 包装廃棄物の環境JIS化
2. 「包装・容器の高齢者・障害者配慮設計指針」対応

●「日本の包装産業出荷統計」調査発表

【包装技術研究所】

- ・輸送包装研究室・消費者包装研究室・包装システム研究室
- ・包装材料研究室・国際包装研究室・包装経営研究室・包装教育研究室

5-2 経験交流



【国際活動】

- WPO・APFとの連携
- 海外の包装関係団体・工業会との連携
- 海外包装専門視察団の派遣
- 海外包装技術研修及び視察団の受入 他

【国内活動】

- 全日本包装技術研究大会開催
- 日本パッケージングコンテスト開催
- 木下賞選定表彰
- 県別包装研究会開催
- 包装界合同新年賀詞交換会開催 他



5-3 教育・研修

包装人材育成ステップ

包装新人研修コース【入門】

包装基礎コース【初級】

包装管理士講座【中級】

包装アカデミー【上級】



【その他】

- 化粧品包装セミナー
- 医薬品包装セミナー
- 包装材料セミナー
- 段ボール包装設計コース
- 緩衝包装設計コース
- フレキシブルパッケージコース
- ユニバーサルデザインパッケージコース

5-4 展示会



●TOKYO PACK（東京国際包装展）

1966年より隔年で開催。現在は東京ビッグサイトにて、出品社数約500社、来場者数約20万人を数える。主に包装関係者を対象としたビジネス向け展示会。



●暮らしの包装商品展

1997年より隔年で開催。都立産業貿易センター浜松町館にて、適正包装の啓蒙、包装業界のPRなどを目的とする。主に消費者を対象とした一般向け展示会。2011年は新宿駅西口広場で開催。



5-5 情報・出版

- 月刊「包装技術」
- 「包装技術便覧」
- 「包装材料の基礎知識」
- 「食品包装とPL法」
- 「包装早わかり！」
- 「包装・・・？知ってなっ得」
- 「包装のリサイクル&バリアフリー」 他



5-6 会員サービス

- 月例研究会
 - ・包装資材研究会(年5回)
 - ・輸送包装研究会(年5回)
 - ・包装ラインシステム化研究会(年5回)
 - ・生活者包装研究会(年5回)
 - ・包装情報研究会(年5回)
- 月例見学会(年4回)
- 特別企画
 - ・日本パッケージングフォーラム
 - ・包装情報ステーション
 - ・包装革命シンポジウム 他
- 包装懇話会
 - ・食品流通包装懇話会(年4回)
 - ・医薬品包装懇話会(年4回)
 - ・パッケージデザイン懇話会(年4回)
 - ・輸送包装懇話会(年4回)



6. 日本の包装産業の規模

平成23年日本の包装産業出荷統計



6兆1,231億円

(前年比99.4%)

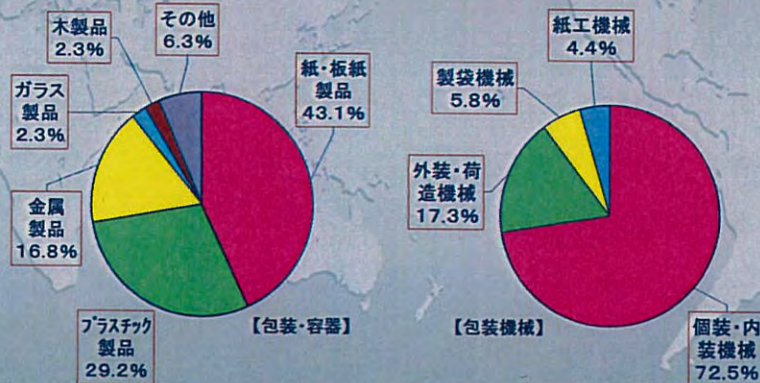


●包装・容器出荷金額 5兆6,892億円(前年比99.1%)

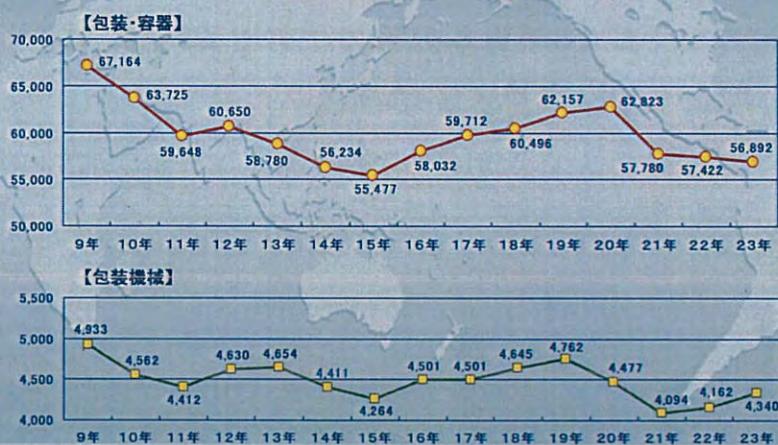
●包装機械生産出荷金額 4,340億円(前年比104.3%)

※一部推定値含む

6-1 平成23年包装・容器出荷金額 & 包装機械生産金額の構成比



6-2 包装・容器出荷金額 & 包装機械生産金額の推移



7. 日本包装技術協会が 取り組んでいる主な課題

- JIS規格およびISO規格の原案作成と国際整合性
- 環境問題対策とリサイクル促進
- 高齢者・障害者配慮の包装
- 物品識別化(IT技術)の標準化
- 包装人材育成
- 海外との提携ならびに技術指導





リデュース
ヨコハマ R 委員会 平成 27 年度の活動について

1 活動概要

- (1) 委員会に寄せられた新たな取組提案の実現に向け、必要とされる支援の検討やノウハウの提供等の支援を行う。
- (2) 支援を行った各取組の成果について、市民・事業者・行政の立場から検証を行う。
- (3) 寄せられた提案を基に、特に推進していくべき取組についてはさらなる展開を図る。
(回数が増、場所の拡大、内容の拡充 等)
- (4) 支援した取組やリデュースに関する広報活動の検討を行い、効果的な情報発信ができるようにする。
- (5) 必要に応じてプロジェクトチームをつくり、効率的に調査・検討を行う。
- (6) 各委員の活動や、各地域・各業界のリデュースの取組等について情報交換を行い、相互理解を深める。
- (7) 委員が所属する組織の構成委員に対し、取組の支援協力について呼びかけたり、ヨコハマRひろばおよびヨコハマR委員会の活動について情報発信を行う。

2 既存取組の活動方針案

- ・委員会の活動概要を基に、これまで実現した主な取組については、新たな展開を推進していきます。
- (1) マイボトルスポット
 - ・22年10月に取組を開始し、登録数が300か所を超えたところですが、各スポットの状況確認を行い、利用しやすい仕組みづくりを検討していきます。
 - ・26年度に実施した取組推進イベントの「スタンプラリー」を27年度も開催予定です。
 - (2) 割り箸等削減キャンペーン
 - ・26年度の結果を踏まえ、より効果的な啓発が行えるよう検討を行い、27年度もキャンペーンを実施します。
 - (3) 「食品ロス削減」啓発映像
 - ・幅広い世代に効果的に広報・啓発を行うため、イベント等開催時の放映や、外国人向けの普及啓発として、横浜市国際交流協会(YOKE)を通じて市内の国際交流ラウンジでの活用など、様々な場所での普及促進を進めていきます。
 - (4) リユース食器
 - ・24年度に作成した「リユース食器導入の手引き」を活用しながら、普及拡大に向けたPR方法やPR先を検討していきます。

3 年間スケジュール(予定)

- ・検討会議開催(提案が寄せられた場合に、随時開催)
※必要に応じてプロジェクト会議や勉強会、見学会などを実施。
- ・全体会議開催(年2回)
(委員交代の確認、本年度の活動検討、支援案件の報告 等)

4 具体的な取組の検討について

- ・平成27年度の新たな取組の検討について、後日照会をさせていただきますので、具体的な提案をお持ちの場合は、ご提出をお願いします。

「ヨコハマR委員会」 概要（提案等の取扱フロー図）

